

中小企業ぎふ

2016
10-11

Vol.645

2016年11月25日発行

～ 立ちあがろう中小企業、日本のために ～



クローズアップ企業

2～3

肥田陶磁器工業
協同組合
組合員

「大東亜窯業株式会社」

- 会員組合紹介 4
- 先進組合事例紹介 5
- 中央会の活動 6～9
- 組合等の活動 10～11
- 10月の景況レポート 12～13
- 職員レポート 14
- インフォメーション 15
- ものづくり補助金のご案内 16
(革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金)



“組合のニーズに応えるパートナー・中央会”

岐阜県中小企業団体中央会

岐阜市藪田南5丁目14番53号 ふれあい福寿会館9階
TEL 058 - 277-1100(代) FAX 058-273-3930
URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp>

クローズアップ企業

大東亜窯業株式会社

【肥田陶磁器工業協同組合・組合員】

《企業概要》 岐阜県土岐市肥田町肥田2886-3
大東亜窯業株式会社 代表取締役 楓 陽光
<http://www.daitoua.co.jp/>



「美濃焼」は、多治見市・土岐市・瑞浪市で生産される焼き物の総称で、各地域には数多くの窯元があります。そして、岐阜県陶磁器工業協同組合連合会は、産地ごとに組織化された協同組合を傘下とする連合会で、業界発展のために様々な活動を行っています。

連合会の会員に肥田陶磁器工業協同組合（土岐市肥田町）があります。戦前は土岐津陶磁器工業組合皿部として組織していましたが、昭和22年5月に当組合を設立しました。肥田は「和皿」の一大産地で、永い歴史の中で培われてきた伝統や生活習慣を継承しようとする気風と、新天地を求めて先駆けする新取的な精神の相反するものを内包している町です。

そこで、顧客ニーズである多品種・少量・短納期生産への挑戦を続け、金・銀転写の新技術や軽量強化磁器などの新商品開発にも取り組んでいる「大東亜窯業株式会社」を訪問し、当組合の理事長も務める楓陽光社長にお話をうかがってきました。

◎御社のこれまでの沿革について ご紹介ください。

☞ 楓社長

当社は、先代の現会長が昭和26年2月に大東亜窯業有限会社を設立し、昭和48年に株式会社へと組織変更した家庭用和食器メーカーです。今年で創業から65年を迎えました。設立当初は洋食器を主体に生産をしていて、インドネシアや中近東といった地域に輸出していましたが、数年後には洋食器に加え国内向けの和食器の生産も開始し、昭和40年頃には100%国内向け和食器の生産に転換しました。



楓陽光社長

昭和35年に現在の場所に工場を新設し、国内で先駆けて和食器用のトンネル窯を導入しました。それからの約30年は所得倍増計画などもあって、日本経済は急成長を遂げ、和食器も作れば売れる時代が続きました。当社では全自動成型機やパット印刷をいち早く取り入れて機械化を図り、安く大量に作ることで成長してきました。東濃地域には原料となる土が豊富にあったこと、肥田産地は皿が得意でそのノウハウがあったことも当社に追い風となりました。

しかし、バブル崩壊と共に潮目が変わり、業界は急降下していきました。そして追い打ちをかけるように円高の影響で輸出が厳しくなり、海外から安価な輸入品が入ってきたため、美濃焼産地はご承知の有様となりました。ここ数年は円安基調となり、和食ブームもあって少しは緩和されましたが、焼物産地ではまだもがいている状況です。こうした中で、当社は量産体制の設備に新たな機能や加工を付け加えながら、生産の仕組みを変えて顧客ニーズである「多品種・少量・短納期」による生産への挑戦を進めています。

◎御社の特徴や方針を 教えてください。

☞ 楓社長

当社の事業内容は、家庭用高級和食器の製造・販売です。日に約5万ピース生産していて、特に印刷関係の焼物では業界でトップクラスの実力です。当社には連続焼成可能なトンネル窯や温度調節可能なシャトル窯があり、大量の製品を短期間で良質かつ安く作ることが強みでしたが、バブル崩壊後の20年はデフレ社会で物が売れなくなり、業績は平成2年度をピークに減少を続け、大量生産可能な設備が逆に負担になって本当に苦しい時代でした。

大量生産・大量消費の時代が終焉し、ものづくりの現場は如何に顧客ニーズに合わせた商売をするかが課題となりました。ニーズが多様化していく中で、当社ではそのリクエストに応えるべく、プロダクトアウトからマーケットインへと方向転換を行いました。多品種少量生産の実現を目指して生産プロセスをトヨタ生産方式へと変え、生産管理や受注生産販売に対応するためIT経営の導入を進めました。最初は戸惑いの連続でしたが、仕事の状況が“見える化”されて従業員が効果を確認できたことから、ようやく会社全体に浸透してきたなと感じています。当社は、在庫を抱える商売から「お客様が必要とする物を必要な時に必要な分だけ提供する」という考えのもとで生産システムの見直しをしています。

こうした改善を経験したことで、新たな商品づくりにも前向きに取り組むよ



様々な製品が並ぶ工場内

うになりました。平成17年には「日本食文化の提案と併せた和食器による海外市場開拓事業」で、当時話題となった「新連携」の認定を受け、中央会のサポートと産地内のメーカーや商社の協力を得て、『美濃焼輸出プロジェクト』に挑戦しました。私は和食器が入り込む市場はまだあると思っているので、産学共同開発による軽量強化磁器食器「おかのキモチ」の製造販売を始め、ご飯がくっつきにくい茶碗「粒々茶碗」の開発など、今後も補助金等を上手く活用しながら新商品開発の研究を続けていきます。

◎組合に期待することは何ですか？

☞ 楓社長

私は組合員でありながら組合の理事長という立場でもあります。常々、組合でしか出来ないことや組合員のためになることを実行したいと思っています。肥田地区は他産地と比べて比較的似た製品を生産しているため、展示会や見本市に可能な限り組合で出展しています。消費者やバイヤー等の意見を直接聞ける良い機会ですし、組合員も積極的に出展してくれています。

また、肥田地区から業界に新しい風を起こしたいと考え、産地ブランドづくりにも取り組んでいます。先日、組合で立ち上げたブランド「ひだの窯」の商標登録が完了しました。現在、中国での商標登録を進めていますが、今後は組合で基準を決め、条件を満たした商品は“ひだの窯ブランド”として販売していくという戦略により、今までターゲットでなかった市場で付加価値のある商品を新たに展開することが出来ると考えています。

外国人技能実習生の受入事業も含め、どれも組合だからやれることだと思いますし、組合は活用次第で様々なことにチャレンジできる組織だと思っています。2020年の東京オリンピックに向けて、次の一手を楽しみにして下さい。

◎経営をしていく上で大切にしていることを教えてください。

☞ 楓社長

企業は継続性が求められます。当社では「事業を通じて地域社会に貢献する」、「お客様の身になってより良い製品をより安く提供する」、「全社員の幸福な生活を実現する」、「日本一の和食器メーカーを目指す」を経営理念として掲げていますが、次代に引き継ぐにはこれを達成していくことだと思っています。当社は美濃焼という大きな

カテゴリーの中にある肥田という産地で育ててもらいました。顧客ニーズに応えながら、顧客が求める商品を提供し続けることで会社が潤い、その結果として地域社会への貢献や従業員の幸福に繋がると考えています。先が読めない状況での経営は難しいですが、商売の基本である「三方よし」を私は大切にしています。

もう一つ、経営においては従業員間のコミュニケーションは重要です。そのため当社ではサークル活動に力を入れています。従業員からの改善提案も出てきますし、部署毎の連携もスムーズになるなどの効果を上げています。従業員の8割近くが女性であることから、女性の感性をどう活かし戦力にするかが手腕の見せ所だと思っています。



展示会の出展ブース

◎最後に御社の今後の展望、抱負をお聞かせください。

☞ 楓社長

先般、都会のある家庭の食卓の写真を見ました。皿の下に敷かれた新聞の折込みチラシの上に朝食のトーストが置かれたり、惣菜がプラスチック容器ごと出されたり、フライパンのまま食卓に出された料理の画像に衝撃を受けました。現代人は時間が無く、食器を洗う時間を節約するためにこうした食卓が増えているとの説明を聞きましたが、これは我々の業界にとって憂慮すべき事態だと感じました。茶碗が無くて困っている人は殆どいない。その中でどうやって売っていくか。とても難しいテーマです。でも、この現実を目を背けることは出来ないのので、工夫して知恵を絞ってこの難局を乗り切る覚悟です。

当社は、経営理念にも掲げていますが“日本一の和食器メーカー”を目指しています。日本を代表する食器メーカーは？と聞かれたら、誰もが「大東亜窯業」と答えてもらえるよう今後も「器」を通して豊かな暮らしを提案していきたいと思っています。

【組合概要】

肥田陶磁器工業協同組合

理事長 楓 陽光 (大東亜窯業株・代表取締役)

〒509-5115 岐阜県土岐市肥田町肥田1693

URL: <http://www.chuokai-gifu.or.jp/hida-kou/>

組合員数: 21社

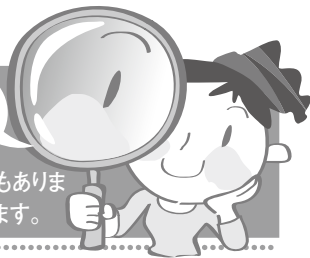
主な事業: 共同販売事業、外国人技能実習生受入事業等



組合紹介

こんな活動をしています！

本会は、多種多様な業種・業態の組合等が会員となっており、これが本会の特徴でもあります。各組合がその特徴を活かし日々活動を行っていますので、皆様の仲間を紹介します。



飛騨のさるぼぼ製造協同組合

- 理事長 中澤 澄夫
- 組合員数 4人
- 設立年月 平成18年6月
- 住所 高山市上岡本町3丁目376番地
- TEL 0577-35-1230
- URL —

◆組合の歴史・活動



中澤澄夫理事長

飛騨地域のお土産として認知されている「さるぼぼ」ですが、土産物店に並び始めたのは1978年頃からです。さるぼぼとは、飛騨地方の方言で猿の赤ん坊という意味で、その昔、母親が娘の縁結びや安産、夫婦円満などの幸せを

願って作っていた人形です。そして、そのさるぼぼを製造する事業者4社で組合を設立し、今年で10周年を迎えました。

組合を立ち上げた目的は2つありました。まず、さるぼぼを飛騨の工芸品として価値あるものにしていくため、商品の質・価値を高めることです。さるぼぼは、内職者が丁寧に1個ずつ手作りして各所で売っていましたが、品質にばらつきがあったことから、品質のよい商品を作ってもらう指導やアドバイスを組合で行い、さるぼぼの価値を高めたという思いがありました。そして、もう一つは“地域の雇用を守る”という使命感でした。海外製の粗雑なさるぼぼが出始め、今後の展開を考えると地域の発展と雇用を守るには地元業者が協力をしていかなければいけないとの思いに駆られ、組合設立を強く意識しました。今では、組合員は勿論、当組合の活動に協力してくれる賛助会員の皆さんのおかげで、多くのさるぼぼ関連グッズやお菓子、雑貨等が販売されていて、飛騨を訪れた観光客の土産品選びを楽しませてくれています。

組合活動の中心は共同販売事業と共同宣伝事業です。地元金融機関のイメージキャラクターに使用されたり、行政や各種団体等が主催するイベント等に協賛してさるぼぼを無償提供するなどのPR活動を行っています。

また、組合では2007年に地域団体商標「飛騨のさるぼぼ」の認証を取得し、2009年には立体商標登録を行って模倣品や類似品の排除に努めてきました。地道な努力の積み重ねもあって、今ではこうした商品は見かけ

なくなりました。その他にも、飛騨国分寺境内にある庚申堂に「願掛けなでさるぼぼ」を寄贈して、住職に法要してもらいました。そして、願掛けなでさるぼぼと合わせて設置したのが、「満願成就の棚」です。これは、さるぼぼを購入した方から「お守りなので捨てられない」といった声が寄せられたことから、願いが叶い不要になったさるぼぼを組合で供養することにしました。毎年4月に棚に置かれたさるぼぼや役割を終えて戻ってきたさるぼぼの供養を行っています。

◆組合が目指す方向性とは

当組合の基本理念は、「私達は、さるぼぼという飛騨地域の代表的な民芸品を日本で一番の代表的な民芸品に育てる」、「私達は、さるぼぼの製造及び販売に関するすべての人の幸せと社会的地位の保全に努める」、「私達は、さるぼぼの製造及び販売を通して飛騨地域の観光発展に寄与する」です。今後もさるぼぼを地域ブランドとして守り、育てていき、新しい事にもチャレンジしたいと思います。そのためにも、中央会の力添えは不可欠であり、組合の良き相談相手として、様々なアドバイスや支援をお願いしたいと思っています。

中澤理事長は「さるぼぼを発売した当初は全く売れなかった。しかし、さるぼぼに込められた思いや意味を記した説明書を人形に付け、さるぼぼの由来を書いた看板を売り場に設置すると少しずつ売れ始めた。こうした状況からスタートして今では県郷土工芸品の指定を受け、飛騨を代表する土産品となった。これからも市や商工団体、観光業界等と連携して組合活動に努め、この地域の雇用を生み出す産業としてさるぼぼを後世に残していきたい。そのためにも組合では、飛騨地域のみに限定した販売戦略をとっている。さるぼぼは岐阜県、もっと狭く言えば飛騨に来ないと買えない土産品であることが重要であり、広げず、地域限定にこだわっている。ただ、海外からの観光客が飛騨に来れなかった場合もあることから、『日本のお土産』として最後に買えるよう成田空港と中部国際空港には置いている。高齢化に伴う内職者の減少といった課題も抱えていて決して順風満帆とはいかないが、さるぼぼを日本一の土産品、土産品にするため力を合わせて頑張っていきたい」と今後の抱負を話しました。



満願成就の棚と願掛けなでさるぼぼ

※組合紹介が可能な組合がございましたら、中央会の国際・情報課までお知らせ下さい。

～危機の時代だからこそ「TEAM」の力が試される～ 全国の先進組合事例

○地域産業を担う人材の確保・育成(ビジネスマインド・スキルの涵養)

滋賀電設資材卸業協同組合

(技術革新に対応する最新知識武装型教育研修の展開)

ポイント	研修参加者にとっては客観的な知識を同時に得られることで、顧客への説明で各社の特徴を比較説明することで顧客の信頼を勝ち取ることができるというメリットがある一方、メーカーにとっても一度に説明できることで組合員各社を回って商品説明する手間が軽減されるなど、組合員とメーカー双方にメリットが享受されている。		
住所	滋賀県大津市におの浜4丁目1-25		
URL	—		
電話	077-523-1266		
組合員	11人	設立	平成7年4月

■ 背景と目的

近年、電設業界は太陽光発電やLED照明など新しい技術が次々と出てきており、これら川上の技術革新による各種製品を流通させるために常に最新の知識を保有していなければ、顧客ニーズに応えることができないという状況に置かれている。そのため当組合では、教育情報事業により、組合員のスキル向上を目的として、定期的な組合内研修を開催することとした。

■ 事業・活動の内容と手法

研修会は、入社3年目(転職を含む)程度までの若手社員を対象とした「若手向けの営業スキル研修会」(年2回(2日間))と、ベテラン営業マンおよび管理者を対象とした「営業研修会」(年2回)の2つで構成している。

若手研修会は、各組合員企業が独自で開催することが難しいよう

な内容をテーマに開催している(平成26年度実績:「リニューアルに向けた資金調達法」「危ない会社の見分け方」)。

一方、営業研修会は「営業スキル研修会」と「商品知識研修会」で構成している。「商品知識研修会」は、新たな技術知識を習得することを目的としているが、毎年設定するテーマに沿って賛助会員である複数の大手メーカーに講師を依頼している。1つのテーマ(主力商品カテゴリー)に絞り、メーカー各社に特徴等を説明してもらい、研修参加者にとっては「複数のメーカーの特徴や機能比較」が1日でできるようになっている。そのため、顧客への営業活動において客観的な知識をもとに的確な提案ができるスキルを身につけることができるという特徴がある。

今後とも新技術のみならず、エアコンや照明といったスタンダードの機器類に関しても、毎年のように新製品や新機能の追加などが発生することから内容をさらに充実させて、新しい知識の補充を繰り返していくとしている。

■ 成果

平成26年度は、営業研修会として「営業スキル研修」および「商品知識研修会」を2ヵ所(守山地区および彦根地区)で開催し、約70名が参加した。また、若手研修会も同じく2ヵ所でそれぞれ2日間開催し約90名が参加した。組合員各社の営業マンは非常に忙しく、このような組合の研修会が開催されなければなかなか最新の知識を習得できないため、各社とも研修事業の意義や効果を十分に認識して取り組んでいる。

○地域産業を担う人材の確保・育成(モチベーションアップ)

四国タオル工業組合

(認定制度創設によるプロフェッショナル人材の育成)

ポイント	組合を中心に行政や関係機関との連携および推進体制が構築できており、有資格者に対する研修会開催や情報提供、有資格者同士が繋がる機会を提供できたことが成果実現に結びついている。		
住所	愛媛県今治市東門町5丁目14-3		
URL	http://www.stia.jp/		
電話	0898-32-7000		
組合員	112人	設立	昭和27年11月

■ 背景と目的

近年、タオル輸入品が急増し、国産タオルが売れなくなった理由は、価格競争に加え、売り場販売員が必要とする国産品の質の高さや安全性等の正確な情報を消費者へ伝えるための知識など、販売スキルの不足が要因であり取り組むべき課題となっていた。

また、衰退する産地には技術の承継者が育たず、将来を担う人材確保も難しい状況であることから、人材の育成と確保のため、組合では認定制度創設によるプロフェッショナル人材の育成に取り組むこととなった。

■ 事業・活動の内容と手法

今治商工会議所と共同して平成19年度に世界初となる「タオルソムリエ資格制度」を立ち上げた。この制度はタオルに関する「歴史」「文

化」「技術」「製品」「顧客サービス」「ブランド」等多岐にわたるタオルに関する習熟度を認定する資格試験制度である。認定によりタオルについて正しく理解し、その知識とスキルを活かして、より良いタオル文化の普及につなげるプロフェッショナル人材を育成するとともに、全国にタオルの魅力を発信していくことを目的として実施している。

また、技術承継や人材確保の課題を解決するために、優れた技術者にマイスターの称号を授与し顕彰する「タオルマイスター制度」を創設した。この制度の資格要件の一つに社内技能検定合格者としている。社内技能検定はタオル製造に関する知識・技能を客観的に評価することで若手人材の確保および育成と、伝統ある技術の次世代への円滑な継承を目指し、ものづくり技術のさらなるレベルアップを図り、タオルマイスターの輩出を目指すことを目的として実施している。この社内技能検定は厚生労働省認定の技能検定であり、これにより技能振興上奨励すべきものとして認められ、社内技能検定の合格が技術者の目標となっている。

■ 成果

タオルソムリエ資格制度は平成27年に第10回目を実施し、全国で2,307名が認定された。東京地区での合格者が今治地区を上回りプロフェッショナル人材が全国に広がっている。社内技能検定は平成27年に第5回目を実施し合格者が延べ30名以上となっている。当組合では、有資格者に対する研修会の開催や情報提供、有資格者同士が繋がる機会を提供しており、今後も有資格者の拡大が期待される。

『団結は力 見せよう組合の底力!』

第68回中小企業団体全国大会(石川県)

全国中小企業団体中央会と石川県中小企業団体中央会は、組合組織を基盤にして中小企業の安定的な振興発展を目指すため、10月19日(水)に石川県金沢市のいしかわ総合スポーツセンターで「第68回中小企業団体全国大会」を開催した。今年のテーマは『団結は力 見せよう組合の底力!』。大会には全国各地から約2,500人が参集し、本会からは会員組合など38名が参加した。

この大会は、全国の中小企業団体の代表者が一堂に会し、中小企業者で組織する全国約3万組合等の意見を総意としてとりまとめ、これを内外に広く表明するとともに、国等に対して中小企業の振興施策の強化を訴え、安定した中小企業の成長と豊かな地域社会の実現を図ることを目的に開催している。

大会はアトラクション「金沢素囃子」が披露されて幕を開け、松村祥史経済産業副大臣をはじめ多数の来賓が出席する中、開会宣言に続いて全国中央会の大村功作会長が主催者を代表してあいさつし、「組合等が組合制度の原点である『相互扶助の精神』のもと、団結の力を再確認するとともに、持続的な発展と豊かな地域社会の実現を図るための施策の推進を、政府を始めとする関係各方面に全力で働きかけるよう努力していく」と決意を述べた。

次に谷本正憲石川県知事、細田太造金沢市副市長から歓迎のあいさつがあり、来賓祝辞に続いて石川県中央会の山出保会長が議長を務めて議事が進行され、「実感ある景気回復と中小企業の経営力の強化」、「地域を支える中小企業の生産性の向上」等を具体化し、全国381万の中小企業・小規模事業者の生産性向上の底上げを実現するための中小企業対策の拡充に関する14項目を決議した。

また、優良組合や組合功労者等に対する表彰式が行われ、優良組合36組合、組合功労者73名、中央会優秀専従者19名に対して表彰状の授与と記念品が贈呈された。本県からの被表彰者は次のとおり。

▽優良組合＝高山建設業協同組合(大山龍彦理事長)

▽組合功労者＝黒田隆氏(岐阜県金型工業組合・理事長)

その他、サブアリーナ会場では特別企画「石川の伝統工芸とものづくりと連携支援プロジェクト」が開催され、加賀百万石の伝統文化・工芸の実演・展示や石川が誇る26の老舗有名店の逸品販売、そしてお茶席では和菓子でのおもてなしが行われた。

なお、決議項目は次のとおり。詳しくは、全国中央会ホームページからご覧下さい。

(<http://www.chuokai.or.jp/event/event-01.htm>)

I. 実感ある景気回復と中小企業の経営力の強化

1. 国内需要の喚起と中小企業の経営力の強化
2. 中小企業組合制度等の改善・充実、中央会支援体制の強化
3. TPP対応、海外展開の推進
4. 公正な競争環境に向けた独禁法等の執行強化
5. 官公需対策による経営支援の強化
6. 熊本地震・東日本大震災等からの復興の加速化

II. 地域を支える中小企業の実態の向上

1. 中小企業に対する金融政策の拡充
2. 中小企業の実態を踏まえた労働・雇用対策の推進
3. 卸売・小売業、物流、サービス業の生産性向上
4. まちづくり・商業集積の強化、商取引の適正化
5. 中小製造業等の持続的発展の推進
6. 中小企業の実態を踏まえた労働・雇用対策の推進
7. 中小企業における職業能力開発の推進
8. 社会保障制度の見直し



大村会長が開会あいさつ

来年の全国大会は、平成29年10月26日(木)に長野県松本市の「長野県松本文化会館(キッセイ文化ホール)」で開催する予定です。会員の皆様には多数の参加をお願い致します。

高山市で「中小企業経営強化法」の説明会を開催

中央会では、平成27年度補正予算で措置された「消費税軽減税率対応窓口相談等事業」に取り組んでおり、同事業を活用して今年7月に施行された「中小企業等経営強化法」の説明会を10月21日に高山市文化会館で開催した。

消費税率の引上げ等は平成31年10月へと延期される見通しとなったが、8%へ引上げ後の消費動向を顧みると中小企業・小規模事業者が「経営力強化」に取り組んでおくことは重要であることから説明会を企画し、組合事務局や中小企業者ら27人が参加した。中部経済産業局の担当者は国が認定する「経営力向上計画」や認定による効果等について説明し、「計画策定の際には申請書記載フォーマットを準備しているので活用して欲しい」と取り組みを促した。

なお、本会では専門家による個別相談窓口も設置している。12月から1月にかけて4回予定しているので、活用していただきたい。詳しくは本会HPをご覧ください。



担当者の説明を聞く参加者

神奈川県で開催された「組合青年部全国講習会」に参加

全国中小企業青年中央会が主催する「平成28年度組合青年部全国講習会」が11月4日に神奈川県横浜市のローズホテル横浜で開催され、全国の青年部から325名が参加した。県青年中央会からは林繁良会長以下5名が参加し、青年部間のネットワークの構築や代表者同士の交流、親睦を図った。

講習会に先立ち、47都道府県の代表者が集い『UBAサミット』が開催され、グループによる意見交換が行われた。講習会では、(有)エイ・エル・ピーの社長で健康心理士の八尾稔啓氏が「輝ける未来のための人づくり～人財育成が、組織活性の根っこ～」をテーマに講演。八尾氏は「経営者も従業員も良い仕事をするには心をリラックスした状態で行うこと」とメンタルの重要性を説明した。

講習会後には、港町コースと中華街散策コースに分かれての「横浜まち歩き」が行われ、参加者は秋の街並みを散歩しながら夕暮れまでの時間を楽しんだ。また、交流懇親会には、神奈川県の中島正信副知事など多数の来賓が出席し、参加者同士の情報交換や親睦を深めた。

なお、全国講習会は来年度、本県での開催が予定されているため、パンフレットの配布と懇親会の中でPR活動を行い、本県での再会と多数の参加を呼びかけた。



岐阜県での開催をPR

レディースクラブが「全国フォーラムin三重」に参加

全国の組合に関係する女性経営者などが一堂に会する「レディース中央会全国フォーラムin三重」が11月1日にホテルグリーンパーク津で開催され、全国から約230名が参加した。本会レディースクラブからは20名が参加し、全国の女性経営者らと交流を深めた。

基調講演では、オリンピックメダリストの武田美保氏より「世界を目指す究極のチームワーク・リーダーシップ」をテーマに講演が行われ、競技を始めたきっかけや選手時代のコーチである井村雅代氏の指導法、目標設定やモチベーション維持のスキル等、オリンピック出場で得た貴重な経験を披露した。

続いての分科会では2テーマに分かれて事例発表が行われ、ばんこの里会館で館長を務める数馬桂子氏から「地場産業 萬古焼の発展と事業展開」について、現役海女で島の旅社の濱口ちづる氏から「海女文化が伝える島の魅力と観光」についてそれぞれ事例紹介があった。

また、分科会後には交流会が行われたほか、翌日にはエクスカージョンも企画され、参加者は充実した2日間を過ごしていた。



伊勢志摩で記念撮影

県に対し官公需に関する6項目を要望

中央会並びに中央会の部会である岐阜県建設関連団体部会（荒川晶一部会長）は、10月24日に県土整備部、都市建築部、商工労働部に対し「地元業者の優先活用と分離・分割発注の推進」など県の官公需に関する6項目の要望を行った。

同部会では、毎年「官公需フォーラム」を開催して県の担当部局との懇談会を実施しているが、フォーラムに先立ち会員（40組合等）から寄せられた懸案事項などを取りまとめて要望活動を行っている。

当日は村瀬恒治副部会長ら5人の副部会長と本会の志村専務理事が県庁を訪れ、県土整備部の高木部長、都市建築部の酒向部長、商工労働部の河合部長に面談し、村瀬副部会長から要望の要旨が述べられ、続いて各副部会長から県内の建設関連業界の実情等が報告された。

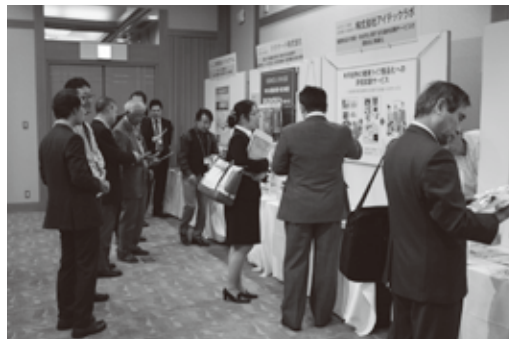


高木県土整備部長・村瀬副部会長(右)

ものづくり展示会・ものづくり支援講演会を開催

中央会は、「ものづくり展示会・ものづくり支援講演会」を11月7日（月）にじゅうろくプラザで開催し、県内の中小企業者ら約200人が参加した。

ものづくり補助金（平成25年度補正 中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業、県内からは1次公募と2次公募を合わせて314件が採択）を活用して開発された新製品、サービス、技術等の優秀事例を展示した「ものづくり展示会」には10社が出展し、事業の成果をパネルや成果物等を展示して紹介した。各ブースでは、企業担当者が用途や成果のポイントなどを説明する様子が見られ、各ブースは多数の来場者で賑わった。



ものづくり展示会



門倉貴史氏

また、中小企業・小規模事業者の皆様へエールを送る「ものづくり支援講演会」では、BRICS経済研究所の代表でエコノミストの門倉貴史氏が「必ず誰かに話したくなる経済学」をテーマに講演。門倉氏は、習慣・ジंकス、投資、経済効果、景気・経済、働き方・モチベーションの5つに関する話を約90分に亘って展開し、「2020年の東京オリンピックの経済効果として、外国人観光客が飲み屋で使ったお金で従業員の給料増となり、それがブランド品を購入する百貨店の売上増につながる。また、日本の温水便座が気に入り、海外への輸出が増えるのでは」などと持論を述べた。また、「日本人は金曜日が最もモチベーションが上がる。労働生産性を伸ばすコツは上司と部下の人間関係にある」とアドバイスし、最後に「これからの時代におススメの副業は、砂金採り、結婚式の代理出席、流木拾い」と紹介して講演会は終了した。

なお、ものづくり補助金とは、認定支援機関と連携しながら、ものづくり技術・商業・サービスの開発等を行う中小企業・小規模事業者を支援する事業。今回は、同補助金を活用して開発した新製品、サービス、技術等の成果を内外に発表することを目的に「成果事例集」を2千5百部作成し、来場者に配布したほか、中央会会員組合をはじめ、補助金採択事業者や県内認定支援機関等に送付した。



ものづくり成果事例集

中央会では、平成29年1月17日（火）まで「平成28年度補正 革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」の募集を行っております。詳しくは、本会ホームページ又は本誌16頁をご覧ください。

◆出展企業の展示ブース◆

【印刷・同業関連業】

**株式会社
岐阜文芸社**

（代表取締役社長 飯尾 賢）

事業計画名：
AR（Augmented Reality、拡張現実）技術を利用したダイレクトメールの企画・開発・製造



【化学工業】

**長良サイエンス
株式会社**

（代表取締役社長 中塚 進一）

事業計画名：
超臨界流体クロマトグラフィーを利用した生理活性天然物の分離精製



【食料品製造業】

小林生麺株式会社

(代表取締役 小林 俊夫)

事業計画名:
低糖質かつグルテンフリーのまるごと生大豆麺の試作・製造



【学術・開発研究機関】

株式会社 アイテックラボ

(代表取締役社長 中村 伸)

事業計画名:
健康食品の効能・安全性に関する先進的試験サービスの開発及び事業化



【各種商品卸売業(繊維工業)】

テクナード株式会社

(代表取締役 原 真澄)

事業計画名:
消臭・吸湿機能素材の多用途展開や高感性化ニーズに対応した高付加価値・複合機能化技術の開発



【機械器具卸売業(情報サービス業)】

株式会社 インフォファーム

(代表取締役社長 辻 博文)

事業計画名:
タブレットを利用した新しい学校授業・自主学习スタイルの実現



【情報サービス業】

株式会社 サイエンスネット

(代表取締役 深井 隆司)

事業計画名:
医療連携型ロボットとタブレット端末を活用した自立支援システムの試作開発



【建築材料、鉱物・金属材料等卸売業(窯業・土石製品製造業)】

株式会社 エクシズ

(代表取締役 笠井 政志)

事業計画名:
廃棄物溶融スラグを原料とした焼成品の開発・商品化



【電気機械器具製造業】

株式会社 イーエスピー企画

(代表取締役 江崎 雅康)

事業計画名:
産業用途向け高効率・大容量ブラシレスDCモータ制御装置の開発



【広告業】

有限会社 彩美社

(代表取締役社長 野村 千俊)

事業計画名:
観光関連事業者の広告看板市場の獲得を目指す立体的木製看板の製造技術開発



組合等活動

国際航空宇宙展に出展し世界に向けて情報発信

●川崎岐阜協同組合(福西紀雄理事長)

川崎岐阜協同組合は、10月12～15日に東京ビッグサイトで開催された「2016年国際航空宇宙展(JA2016)」に出展した。この展示会は4年に1度開催しており、今回で14回目となる。前回の2012年は名古屋で開催されたが、今回は前回を上回る約4万4千人が来場し、航空宇宙産業への関心の高さがうかがえた。

展示会には、同産業への新規参入や新たな受注獲得に意欲のある県内中小企業等8者が「岐阜県・各務原市ブース」より出展し、国内外の企業などにPR・商談を行った。同組合では組合員が固有技術を習得し、磨きをかけると共に連携を深めて一貫生産による受注体制を整えたことから「一貫生産体制のPR」「BtoB商談会」を行ったほか、傘下組合員である天龍エアロコンポーネント(株)が製作した「民間航空機用超軽量シート」を展示した。

出展にあたって組合では「現在、グループの総従業員数は約3千5百人、航空宇宙関係の売上高は530億円規模になり、その結果として川崎重工業への生産協力に留まらず、ユニット受注を視野に世界に向けて販路拡大を目指していきたい」とコメントした。



組合の出展ブース

2組合が「メッセなごや2016」に出展

●岐阜IT協同組合(馬淵雅宣理事長)

●丸重製紙企業組合(辻守重理事長)

日本最大級の異業種交流展示会「メッセなごや2016」が10月26～29日まで名古屋市のポートメッセなごやで開催され、岐阜IT協同組合と丸重製紙企業組合が新たな商機を求めて出展した。

今年は中部地方を中心に、国内外から過去最大となる1,409社・団体が出展し、最新の技術やサービスなどを展示。4日間で6万4千人余りが来場し、出展者と来場者双方のビジネスチャンスの場となった。その中で、岐阜IT(協)は昨年に引き続いての出展となり、組合のPRをはじめ、組合員企業が事業内容を紹介するなど、県内IT業界の知名度アップに努めた。また、丸重製紙(企)では組合で製造した和紙や便箋などの和紙製品を並べ、和紙ブラザーズ(辻晃一・将之兄弟)がブースに訪れた来場者に商品の特徴などを説明していた。

その他、本県からも組合傘下の企業やものづくり補助金に取り組んだ企業等が多数出展し、会場では活発な交流や商談が行われていた。



丸重製紙(企)の出展ブース

大垣工業高校の生徒に電気工事技術を講義

●西濃電気工事協同組合(高橋勤理事長)

西濃電気工事協同組合は、11月1日に西濃電気会館において大垣工業高校電気科の2年生37名(先生3名)の生徒と電気工事業界理解促進交流事業を開催した。

同事業は、次代を担う電気技術者の確保に向けた取り組みで、事業の開始にあたり高橋理事長は「今日はこれまで教科書で習ったことを実際の工事を見ることでより理解が深まると思う。今後、1人でも多くの若者が電気工事業界に入ってくれることを期待している」と挨拶した。

最初に生徒は研修室で屋内配線工事の様子をDVDで鑑賞し、高木副理事長が屋内配線工事のポイントについて説明。続いて、仮設住宅が建設された会館駐車場に移動し、青年部員が屋内配線工事の手順の解説を交えながら実演した。

また、電気工事業界に就職した同校OBの組合員が職業としての電気工事について語り、生徒は机上の学習と現場での工事の様子を比較しながら興味深く学んでいた。



屋内配線工事を実演

創立120周年記念式典・祝賀会を開催

●美濃織物工業協同組合(廣瀬昇理事長)

美濃織物工業協同組合は、10月27日にホテルグランヴェール岐山で「創立120周年記念式典並びに祝賀会」を開催し、来賓や組合員など約80名が出席した。

同組合の歴史は、明治29年10月に岐阜県美濃縞組合(粗製濫造を防止する製品改善と向上が主事業)として発足し、幾変遷を重ねて昭和6年に岐阜県美濃織物同業組合に名称を変更。その後、県下組合の統合の時代を経て昭和22年に現在的美濃織物工業協同組合が誕生した。現在は28名の組合員で組織し、教育情報事業を中心に活動を行っている。

式典では、開会にあたり廣瀬理事長が「会員や関係機関の方々と力を合わせて織物業界の匠として発展を目指していきたい」などとあいさつし、組合功労者に対する表彰が行われた。また、引き続き行われた祝賀会では岐南町の夢飛翔太鼓が披露され、業界の歴史や先人たちの功績を振り返りながら、業界の大還暦にあたる大きな節目を祝った。



あいさつする廣瀬理事長

特産の御影石で壁画を作成

●岐阜県花崗岩販売協同組合(吉田友寿理事長)

石彫のつどい実行委員会による「第26回石彫のつどいファイナル」が11月3日に中津川市の蛭川公民館(蛭子座)前で開催された。

同ファイナルでは、岐阜県花崗岩販売(協)の組合員12社が2人の彫刻作家の指導の下で、60cm四方の蛭川特産「御影石」を使った彫刻に9月から挑んでいたが、その制作した15ピースを一つにした壁画完成したことから除幕式が行われた。今回は地域の県重要無形民俗文化財指定の「杵振踊」をテーマに制作されたものがある。

同組合の吉田友寿理事長は「第26回となる今回は若手を中心に企画し、組合員が一つの作品を造るという新たな取り組みを行った。今後もこれを継続していきながら、このイベントを契機に地場産業である花崗岩(御影石)の採掘及び販売のPR等に繋がり、業界が発展していくことを期待している」とあいさつした。



壁画前で行われた除幕式

災害を想定したBC訓練を実施

●岐阜県土木建築解体事業協同組合(木村順一理事長)

岐阜県土木建築解体事業協同組合は、県と災害応援協定を締結した団体を対象とした県建設業広域BCM認定制度に今年4月に認定されたことを受けて、10月11日にBC訓練を実施した。訓練は6月に引き続き2回目となる。

訓練にあたって木村理事長は「災害が実際に起こった際に人命救助で終わってしまえば策定したBCMは“絵に描いた餅”になってしまう。災害時に自分達が主体的に動けるかを初めて訓練するので、真摯に取り組んで欲しい」とあいさつした。訓練には組合員14人が参加。(一社)BC経営推進機構の安藤一男氏と宮崎浩司氏が講師を務め、災害時に起こる様々な事象を想定したフォローアップ訓練を行った。3つの班に分かれた組合員は、講師から次々と出される課題への対応策を話し合った後に意見発表を行い、BC訓練を終了した。

なお、「緊急時等中小企業支援相互応援協定」を締結している近畿ブロック府県中小企業団体中央会の担当者が訓練を視察した。



BC訓練に臨む組合員

BCP災害模擬訓練を実施

●岐阜県可児工業団地協同組合(傍島茂夫理事長)

岐阜県可児工業団地協同組合は、策定したBCPの実効性向上と職員の危機対応能力向上を図るため、11月3日にBCP災害模擬訓練を実施した。

訓練は県BCP研修・訓練センターの近藤氏と伊藤氏がシミュレータを務め、就業時間中に震度6強の大規模地震が発生したと想定。発災から方針決定までのシミュレーションシナリオへの対応により、スピードや正確性などを評価指標として実施した。高橋事務局長が災害対策本部長となり、各職員が与えられた役割をBCP(ミッションシート)に基づき対処しながらゴールを目指した。

訓練終了後には県中央会の支援事業を活用して訓練を振り返る時間を設け、災害時の行動手順の検証とブラッシュアップに取り組んだ。講師からは、収集した情報を整理していくことで課題が明確になり、訓練がより洗練されていくとアドバイスがあり、組合では今後も危機対応能力の向上に努めていくこととした。



屋外訓練を行う組合事務局



景況レポート

平成28年
10月末調査
(前年同月比)

中小企業団体情報連絡員70名
(うち70名分の集計)の情報連絡票から

〔I〕10月の特色

- ◆景況感DI値マイナス23
～前月比3ポイントの悪化～
- ◆売上高、収益状況DI値は共に悪化するも販売価格DI値は改善
- ◆天候不順の影響続く
- ◆円高等為替相場の不安定を懸念

〔II〕10月の概況

当月の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、好転4、悪化27で、DI値はマイナス23となり、前月のDI値マイナス20に対し、3ポイントの悪化となった。

業種別の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、製造業のDI値はマイナス25となり、前月比で8ポイントの悪化、非製造業のDI値はマイナス21となり、前月比で3ポイントの改善となった。

なお、回答のあった70業種のうち、前年同月比で景況感が「好転」と回答した業種は、可児工業団地、青果販売、高山旅館の3業種(前月比+1業種)。

また、「悪化」と回答した業種は19業種(前月比+3業種)あり、特に繊維・同製品、商店街の区分で多かった。

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値はマイナス29で前月比5ポイントの悪化、販売価格DI値はマイナス5で前月比11ポイントの改善、収益状況DI値はマイナス23で前月比11ポイントの悪化、資金繰りDI値はマイナス9で前月比5ポイントの悪化となり、販売価格

DI値は2桁の改善、収益状況DI値は2桁の悪化となった。

コメントを見ると、製造業では、「8月以降、景況感と電気使用量は共に3ヶ月連続してプラスを維持しており、多くの事業所で明るさが漂っている。(可児工業団地)」など、プラスの内容が報告された一方で、「クールビズの終了により、売上が減少(メンズアパレル)」、「輸出向けに陰りが出てきており、収益の悪化など厳しい状況となっている。(刃物等金属製品(輸出))」など、マイナスの内容も報告された。

非製造業では、「天候不良で野菜が高騰したため、売上高が増加した。(青果)」、「9月の天候不順や台風の影響等により入荷量は少なく、菊・小菊等が高騰し、他の花も前年同月比で単価上昇。(生花販売)」など、8月から続く天候不順が10月も影響し、販売価格の上昇や売上の増加を伝える内容が報告された。一方、「小売は、土日が1日多かったにもかかわらず、前年同月比95%と前々月から連続して減少。特に土日の売上が10%以上、下回っている。(陶磁器卸)」、「前年同月比で10%の減少となり、最近にない落ち込みとなっている。インパウンドの減少が多少影響している(長良川畔旅館)」など、マイナスの内容も報告された。

その他、「円高が気がかり(県金属工業団地)」、「株安、円高が助長されると、日本への観光旅行が抑制され、インパウンド熱が急激に冷え込むこととなり心配である。(下呂温泉旅館)」など、円高等為替相場の不安定を懸念する内容が報告された。

<主な調査項目での動向>

売上高の動向は、前年同月比で増加12、減少41でDI値はマイナス29となり、前月のマイナス24に対し、5ポイントの悪化となった。

売上高が増加した業種は9業種(前月比-1業種)あり、米菓、銘木、機械すき和紙、可児工業団地、青果販売、生花販売、高山旅館、土木(岐阜地区)、木造建築である。

売上が減少した業種は29業種(前月比+2業種)あり、特に繊維・同製品、木材・木製品、卸売業、商店街、サービス業の区分で多かった。

販売価格の動向は、前年同月比で上昇10、低下15でDI値はマイナス5となり、前月のマイナス16に対し、11ポイントの改善となった。

販売価格が上昇した業種は7業種(前月比+3業種)あり、銘木、特殊紙、刃物等金属製品(輸出)、青果販売、生花販売、高山旅館、旅行業である。

販売価格が低下した業種は11業種(前月比-4業種)となった。

収益状況の動向は、前年同月比で好転11、悪化34でDI値はマイナス23となり、前月のマイナス12に対し、11ポイントの悪化となった。

収益状況が好転した業種は8業種(前月比+1業種)あり、銘木、機械すき和紙、プラスチック、可児工業団地、青果販売、生花販売、高山旅館、木造建築である。

収益状況が悪化した業種は24業種(前月比+8業種)あり、繊維・同製品、卸売業、商店街の区分で多かった。

資金繰りの動向は、前年同月比で好転5、悪化14でDI値はマイナス9となり、前月のマイナス4に対し、5ポイントの悪化となった。

資金繰りが好転した業種は4業種(前月比+1業種)あり、銘木、プラスチック、可児工業団地、高山旅館である。

資金繰りが悪化した業種は10業種(前月比+4業種)あり、特に商店街の区分で多かった。



県内中小企業

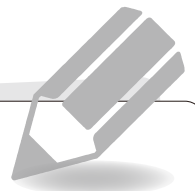
(10月末調査)

主要業種の景気動向

製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
食 料 品	牛 乳		△	△	△	△	△	△
	食 肉 (国 産)		△	△	△	△	△	△
	菓 子		▲	△	▲	▲	△	△
	米 菓		○	△	△	△	○	△
	製 麵		△	△	△	△	△	△
織 維 ・ 同 製 品	擦 糸		△	△	△	△	△	△
	ニ ッ ト 工 業		△	▲	▲	△	△	△
	毛 織 物		▲	△	▲	△	△	▲
	合 成 織 維 織 物		▲	△	▲	△	△	▲
	メ ン ズ ア パ レ ル		△	△	△	△	△	▲
木 材 ・ 木 製 品	製 材		▲	△	△	△	▲	△
	銘 木		○	○	○	○	△	△
	家 具		▲	△	▲	△	○	△
紙 紙 加 工 品	機 械 す き 和 紙		○	△	○	△	△	△
	特 殊 紙		▲	○	▲	△	○	△
	紙 加 工 品		△	△	△	△	△	△
印 刷	印 刷		▲	△	▲	▲	▲	▲
化 学 ゴ ム	プ ラ ス チ ッ ク		▲	▲	○	○	△	△
窯 業 ・ 土 石	陶 磁 器 (工 業)		△	△	△	△	△	△
	タ イ ル		△	△	△	△	△	△
	窯 業 原 料		△	△	△	△	△	△
	石 灰		▲	▲	▲	△	△	▲
	生 コ ン ク リ ー ト		△	△	△	△	△	△
	砂 利 生 産		△	△	△	△	△	▲
鉄 鋼 ・ 金 属	碎 石 生 産		▲	△	▲	△	△	▲
	鑄 物		△	△	▲	△	○	△
	刃 物 等 金 属 製 品 (輸 出)		▲	○	▲	△	△	△
	刃 物 等 金 属 製 品 (内 需)		△	△	△	△	△	△
一 般 機 械	メ ッ キ		▲	△	△	△	△	▲
	県 金 属 工 業 団 地		△	△	△	△	△	△
	可 児 工 業 団 地		○	▲	○	○	△	○
輸 送 用 機 器	金 型		△	△	△	△	△	△
	輸 送 用 機 器		△	△	△	△	△	△

非 製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
卸 売 業	電 設 資 材 卸		▲	△	▲	▲	△	▲
	陶 磁 器 産 地 卸		▲	△	▲	△	△	△
	機 械 ・ 工 具 販 売		△	△	△	△	△	△
小 売 業	青 果 販 売		○	○	○	△	△	○
	水 産 物 商 業		△	△	△	△	△	△
	家 電 機 器 販 売		△	△	△	△	△	△
	メ ガ ネ 販 売		△	△	△	△	△	△
	中 古 自 動 車 販 売		△	▲	△	△	▲	△
	石 油 製 品 販 売		△	△	△	△	△	△
	共 同 店 舗 (飛 騨)		▲	△	△	△	△	△
	生 花 販 売		○	○	○	△	△	△
商 店 街	岐 阜 市 商 店 街		▲	▲	▲	▲	▲	▲
	大 垣 市 商 店 街		▲	△	▲	▲	△	▲
	高 山 市 商 店 街		△	△	△	△	△	△
サ ー ビ ス 業	自 動 車 車 体 整 備		▲	△	△	△	△	△
	長 良 川 畔 旅 館		▲	△	▲	▲	▲	▲
	下 呂 温 泉 旅 館		▲	△	△	△	△	△
	高 山 旅 館		○	○	○	○	△	○
	ク リ ー ニ ン グ		▲	▲	▲	▲	△	▲
	広 告 美 術		△	▲	△	△	△	△
	旅 行 業		△	○	▲	△	△	△
	理 容 ・ 美 容 業		▲	△	△	△	△	△
建 設 業	土 木 (岐 阜 地 区)		○	▲	▲	△	△	▲
	土 木 (飛 騨 地 区)		▲	△	▲	▲	▲	▲
	建 築 設 計		▲	▲	▲	▲	△	▲
	鉄 構 造 物		△	△	△	△	△	△
	電 気 工 事		▲	△	△	△	△	△
	管 設 備 工 事		△	△	△	△	△	△
	建 築 板 金		△	△	△	△	△	△
	室 内 装 飾		△	△	△	△	△	△
	木 造 建 築		○	△	○	△	△	△
	運 輸 業	貨 物 運 送 (県 域)		▲	△	▲	△	△
軽 運 送		△	△	△	△	△	△	
其 他 の 非 製 造 業	貸 植 木 業		△	△	△	△	△	△

凡 例 ○ : [増加]、[上昇]、[好転]
 ▲ : [減少]、[下降]、[悪化]
 △ : [不変]



中央会職員が日々の仕事や生活を行う中で感じていることなどを綴る「職員レポート」。第16回は中央会事務局の“飛驒の姉御”武田飛驒支所長に筆を執っていただきました。

「感謝の気持ちで一杯です」

飛驒支所長 武田京子



常日頃から会員の皆様には大変お世話になり、本誌面を借りて改めて感謝申し上げます。飛驒支所に勤務して36年目を迎えましたが、この間、皆様には多岐にわたり本当に助けて頂きました。各種講習会の開催に向け、私からの魔のお願いメールとFAXにより出席して頂いたことや、事業実施についてご提案を頂き、無事に終わられた事も一度や二度ではありません。また、ある時は組合事務局を訪ね、実務作業を終えると悩みごと相談室となり女子トーク、おじ様トークに随分励まして頂きました。設立と解散。出会いと別れ。様々な思いが溢れ、感謝の気持ちで一杯です。

助けては頂くばかりの私にマイブームとか、こだわりとか何もなく、悩んだ末、マイホームサスペンス劇場を聞いて頂こうかと思えます。

私の唯一の楽しみは、旦那さまが企画した小旅行に同行することでしょうか。お城巡りでは歴史のウンチク、「寄りたい所ある?」と聞かれて「道の駅」や「美術館」と答えれば素通りされる始末。

そんな中、日高牧場で見たサラブレッドの勇姿が忘れられず、北海道へは度々訪れました。今は遠退きましたが、青く澄んだ空の下、凛々しい競走馬がムチを入れられながらも健気に突っ走る姿に感動しつつ、歓喜と懺悔をもって終了。そして、最北端で流水を見た帰り、暴風に飛ばされて知らないおじさんに助けられ、ホエールウォッチングの最中、嵐に見舞われ真っ青になっても、知床では鹿の群れやキタキツネに出会い、鮭の遡上を見て自然界の輪廻を知りました。

西へ出向いた時は和歌山の赤ちゃんパンダや幻想的な滝に癒されました。アクシデントの後はお褒美もあり、行く先々の壮大な景色、海辺から昇る朝日、沈む夕日を眺めては、有難いことと手を合わせます。

旅先での旦那さまは美味しい肴に、ビールと熱燗があればご満悦なので、盃が空にならないよう最新の注意を払い、イビキを聞きながら宿でサスペンスドラマを見て、平和な一時を過ごします。

家に帰れば、早くから生活の危機管理を察知した旦那さまは炊事、洗濯から買物に至るまで家事をこなし、「すごい!天才!」と素直に表現した結果、危機管理に拍車がかかり、日々厳しい目が刺さります。果たしてこれは、俺様は1人で大丈夫だからという赤信号でしょうか??

いやいやこの状況はまずいです。今宵は高いビールを買って家路を急ぎましょう。週末はシーツを洗って、溜まったアイロンをかけて、やればできると存在感をアピールしましょう。

どうか皆様、これからも広いお心で見守っていて下さい。宜しくお願い致します。



旅先での思い出の一枚

秋の叙勲・褒章の表彰

2016年『秋の叙勲・褒章』について、11月2日に褒章、3日に叙勲の受章者がそれぞれ発表されました。中央会関係者の方々は以下のとおりです。

叙勲

【旭日双光章】

糸魚川行吉氏＝岐阜県木材協同組合連合会・理事

土屋 英一氏＝岐阜県医薬品小売商業組合・組合員

廣瀬幸太郎氏＝岐阜県自動車整備商工組合・総代

平成28年度第2次補正予算「小規模事業者販路開拓支援事業」の公募のご案内

小規模事業者の事業の持続的発展を後押しするため、小規模事業者が商工会・商工会議所の支援を受けて経営計画を作成し、その計画に沿って取り組む販路開拓等の経費の一部を補助する「小規模事業者販路開拓支援事業（小規模事業者持続化補助金）」の公募が行われています。公募期間は平成29年1月27日(金)まで。詳しくは、中小企業庁HP（<http://www.chusho.meti.go.jp/>）又は県内の商工会・商工会議所までお問い合わせ下さい。

岐阜労働局より

岐阜県最低賃金は776円です！

岐阜労働局では、「岐阜県最低賃金」を、本年10月1日から時間額776円（改正前の時間額754円から22円の引上げ）とするよう改正しました。

「岐阜県最低賃金」は、年齢に関係なく、パートや学生アルバイトなどを含め、県内で働くすべての労働者に適用されます（一部の産業には特定（産業別）最低賃金が適用されます）。

最低賃金を下回る金額で労働契約を結んでもその契約は無効であり、事業者は少なくとも最低賃金金額を支払わなければなりません。

詳しくは、岐阜労働局労働基準部賃金室（電話：058-245-8104）又はお近くの労働基準監督署までお尋ねください。

「ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」 2次公募の採択結果のお知らせ

国の平成27年度補正予算で措置された「ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金（2次公募）」の採択結果が10月20日に発表されました。

2次公募は、7月8日(金)から8月24日(水)まで行われ、この期間に全国で申請のあった2,618件について、地域採択審査委員会および全国採択審査委員会において厳正な審査を行った結果、全国で219件、本県からは4件が採択されました。

中央会日誌

<9月21日～30日>

23日 第70回全国レクリエーション大会in岐阜総合開会式（岐阜メモリアルセンター）

27日 都道府県中央会事務局代表者会議（ANAインターコンチネンタルホテル東京）

28日 中小企業団体トップセミナー（ANAインターコンチネンタルホテル東京）

<10月1日～31日>

3・13日 特定最低賃金専門部会（岐阜合同庁舎）

9日 全国育樹祭1周年記念大会 記念式典（谷汲緑地公園）

19日 第68回中小企業団体全国大会（いしかわ総合スポーツセンター）

25日 岐阜・ベトナム交流会（岐阜グランドホテル）

27日 美濃織物工業(協)創立120周年記念式典・祝賀会（グランヴェール岐山）

31日 岐阜県成長・雇用戦略意見交換会（岐阜県庁）

<11月1日～20日>

7日 岐阜地方最低賃金審議会（岐阜合同庁舎）

9日 岐阜県地域活性化ファンド審査委員会（ふれあい福寿会館）

11日 岐阜地方労働審議会（岐阜合同庁舎）

13日 関連合刃物(協)創立50周年記念式典・祝賀会（関観光ホテル）

平成28年度補正

革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金の公募について

本事業は、中小企業・小規模事業者が取り組む、経営力向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための設備投資等を支援するものです。

事業の目的

国際的な経済社会情勢の変化に対応し、足腰の強い経済を構築するため、経営力向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための中小企業・小規模事業者の設備投資等の一部を支援します。

対象要件

認定支援機関の全面バックアップを得た事業を行う中小企業・小規模事業者であり、以下の要件のいずれかに取り組むものであること。

「中小サービス事業者の生産性向上のためのガイドライン」で示された方法で行う革新的なサービスの創出・サービス提供プロセスの改善であり、3～5年で、「付加価値額」年率3%及び「経常利益」年率1%の向上を達成できる計画であること。または「中小ものづくり高度化法」に基づく特定ものづくり基盤技術を活用した革新的な試作品開発・生産プロセスの改善を行い、生産性を向上させる計画であること。

事業の詳細

- 中小企業者等が第四次産業革命に向けて、IoT、AI・ロボットを活用する革新的ものづくり・商業・サービス開発を支援。
(補助上限：3,000万円、補助率：2/3)
- 中小企業者等のうち、経営力向上に資する革新的ものづくり・商業・サービス開発を支援。(※)
(補助上限：1,000万円・500万円、補助率：2/3)
※雇用・賃金を増やす取組については、補助上限を倍増
※最低賃金引上げの影響を受ける場合は補助上限をさらに1.5倍(上記と併せ補助上限は3倍)

募集期間

平成28年**11月14日(月)**～平成29年**1月17日(火)**〔当日消印有効〕

平成29年3月中を目処に採択発表を行う予定です。2次公募は予定していません。

※提出は**郵送**又は「ミラサポ(支援ポータルサイト)」での電子申請となります。

公募要領等

「公募要領」、「申請書様式」、「認定支援機関確認書」は、下記ホームページに掲載しております。

(※「認定支援機関」は中小企業庁ホームページでご確認ください。)

岐阜県中小企業団体中央会ホームページ

<http://www.chuokai-gifu.or.jp/chuokai/mono28/H281114mono-boshu.html>

○その他、ご質問等については、岐阜県地域事務局までお尋ねください。

【申請書提出先・問い合わせ先】

岐阜県地域事務局(岐阜県中小企業団体中央会)

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番53号 ふれあい福寿会館9階

☎ 058-277-1101

問い合わせは、月曜日～金曜日(祝祭日を除く) 10:00～12:00、13:00～17:00